

Myctophidae
ハダカイワシ科



和名・学名：マメハダカ *Lampanyctus jordani*

地方名：なし

特徴：体は細長くやや側扁する。眼は大きい。吻は短く先端は丸い。口は大きく、上顎の後端は前鰓蓋骨後縁近くに達する。鱗は円鱗ではがれやすい。

アラハダカ、ススキハダカ、ハダカイワシ、ホクヨウハダカは日中は水深200mより深い深海域に生息し、夜間は海洋の表層付近で動物プランクトンを食べる。日本周辺のハダカイワシ科魚類は88種が知られているが、夜間に表層付近に生息する種は限られており、多くは日中も深海域に生息する。マメハダカもその1つで、深海域に生息しているので、底曳き網による調査で採集される。写真は1997年10月に漁業調査船「若鷹丸」により行ったトロール調査で、青森県三沢市沖の水深450m付近で採捕されたマメハダカ。

分布：北海道太平洋沖から熊野灘、小笠原諸島近海；オホーツク海、ベーリング海、北太平洋の亜寒帯域に広く分布する。

写真・文：北川大二（東北区水産研究所）